

報 告

1969年における規格委員会の活動

規格委員会

1. 概要

前年における規格委員会の活動については、第10巻第6号¹⁾に報告した。それに引き続いて、昭和44年(1969)における経過をISO/TC 97と、それに対応する国内活動、ならびにJIS化への協力とに分けて報告する。

2. 開催された国際会議

1969年に開催された会議をまとめると第1表のようになる。

第1表 本年開催された会議名

月 日	場 所	会議名	出 席 者
5/7~9	オポリ	SC 8	*花岡伸生(富士通), 和久田基美(輸出振)
5/12~14	ナポリ	SC 2	*山本芳秀(通研), 瀬野健治(富士通), 白旗鷹志(日本IBM)
5/19~23	ワシントン	SC 1	*西野博二(電試), 榎本隆光(富士通), 大日方 義(ソフトウェア), 村田隆一(富士通), 伊藤公一(東芝), 増田章彦(東芝)
6/9~10	ベルリン	WG 4/4	*野田克彦(電試), 小林 登(電電公社), 吉岡義則(富士通), 高橋茂(日立), 海宝 顕(日本IBM)
6/11~13	ベルリン	WG 4/6	*西岡英也(富士通), 小林 登(電電公社), *海宝 顕(日本IBM)
7/1~4	静岡	WG 4/1	*末沢 誠(電試), 西川正明(通研), 錦織文六(日電), 西岡英也(富士通), *黒河亀千代(工技院), 池田義載(富士通)
7/7~9	東京	WG 4/5	*木沢 誠(電試), 木村 豊(TE-AC), 徳永英二(日本IBM), *黒河亀千代(工技院)
9/19~	トリノ	WG 5/1	*研野和人(機試), 花岡伸生(富士通)
10/6~10	パリー	SC 1	*淵 一博(電試), 松山俊介(NUK), 木崎 崇(東芝)
11/10~14	ロンドン	SC 6	*鈴木鏡造(電電公社), 齊藤 輝(日電), 小林和夫(富士通), 西海清司(日本IBM)

3. TC/97の活動

本年は秋に予定されていた Plenary が Mr. Grove の急逝もあって延期だったので、前記の第1表に示した諸会議を TC/97 の活動とみなしうる。

わが国はこれらの会議のなかで、WG 4/1 と WG 4/5 について host country として協力した。しかるとこ

ろ、その計画日時がたまたま Lion's International と重なったために、外人の宿泊が極度に困難なことが判明し、ために Secretariat と連絡をとって、急拠 WG 4/1 は静岡県日本平にその会場を移して、無事会議をすませた。来訪委員にはいくらかご迷惑をかけたこととお詫びしたい。

TC 97 の活動による成果については、(1)現在までに勧告 (Recommendation) となったもの、(2)勧告案 (Draft Recommendation) として ISO 加盟諸国からの最終投票 (意見とも) を受けている状況のもの、および(3)勧告案をまとめるべく技術的検討を行なっているものに分けられる。ここでは(1)と(2)とをそれぞれ一覧表として掲げ、(3)については別項に報告されてある国内の委員会活動に譲る。

3.1 勧告

第2表参照。

第2表 勧告

ISO/R	DR No.	Title
646	1052	6 and 7-bit Coded Character Sets for Information Processing Interchange.
840	1314	Code for the Numerical Control of Machines.
841	1315	Axis and Motion Nomenclature for Numerically Controlled Machines.
961	1320	Implementation of the 6 and 7-bit Coded Character Sets on 7-Track 12.7 mm Magnetic Tape.
962	1321	Implementation of the 7-bit Coded Character Set on 9-track 12.7 mm Magnetic Tape.
963	1322	Guide for the Definition of 4-bit Character Sets derived From the ISO 7-bit Coded Character Set.
1001	1323	Magnetic Tape Labelling and File Structure.
1004	893	Print Specifications for MICR.
1028	1299	Flowchart Symbols
1056	1316	Punched Tape Block Formats for the Numerical Control of Machines-Coding of Preparatory Functions G and Miscellaneous Functions M.
1057	1317	Interchangeable Punched Tape Variable Block Format for Positioning and Straight-Cut Numerically Controlled Machines.
1058	1318	Punched Tape Variable Block Format for Positioning and Straight-Cut Numerically Controlled Machines.
1059	1319	Punched Tape Fixed Block Format for Positioning and Straight-Cut Numerically Controlled

		Machines.
1673	966	Alphanumeric Character Sets for OCR.
1113	1418	Representation of 6 and 7-Bit Coded Character Sets on Punched Tape.
1177	1734	Character Structure for Start/Stop and Synchronous Transmission.

3.2 勧告案

第3表参照。

第3表 勧告案

DR No.	Title
1538	Programming Language ALGOL.
1539	Programming Language FORTRAN.
1671	Dimensions for Punched Paper Tape.
1672	Hardware Representation of ALGOL Basic Symbols in the ISO Character Sets.
1679	Representation of ISO Character Set on 12-row Punched Cards.
1681	Specifications for Unpunched Paper Cards.
1682	Dimensions and Location of Rectangular Punched Holes in 80 Columns Punched Paper Cards.
1729	Properties of Unpunched Paper Tape.
1732	The Use of Longitudinal Parity to Detect Errors.
1733	Assignment of Connector Pin Numbers Between Data Terminal Equipment and Data Communication Equipment Where CCITT Recommendation V 24 Applies.
1745	Basic Mode Control Procedures for Data Communications Systems.
1831	Printing Specifications for OCR.
1858	General Purpose Hubs and Reels for Magnetic Tape used in Instrumentation Applications.
1859	Unrecorded Magnetic Tapes (General Dimensional Requirements) for Instrumentation Applications.
1860	Precision Reels for Magnetic Tape used in Instrumentation Applications.
1861	7 track 200 RPI (8 RPmm) Magnetic Tape.
1862	9 track 200 RPI (8 RPmm) Magnetic Tape.
1863	9 track 800 RPI (32 RPmm) Magnetic Tape.
1864	Unrecorded Magnetic Tape, 200~800 RPI (8~32 RPmm), NRZI, and 1600 RPI (63 RPmm), Phase encoded.
1989	COBOL.
2014*	Writing of Calendar Dates in All-Numerical Form (ISO/DATCO N 19).
2015*	Numbering of Weeks (ISO/DATCO N 11).
2021	Representation of ISO 8-Bit Coded Character Set on 12-Row Punched Cards.
2033	Coding of MICR and OCR Character Sets.

4. 規格委員会の動き

これらの ISO 活動に呼応して、国内での技術的検討を順調に進めていくために、規格委員会を4回開催した(2月4日, 5月16日, 7月21日, 11月29日)。

おもな討議事項は、つぎのとおりであった。

第19回 日本IBMからの委員が竹下 享氏に変更されることの承認。各 SC の報告, JIS 原案委員会(用語, フローチャート, 磁気テープラベル, OCR)の報告の承認。本年内に開催されるつぎの国際会議へ

の派遣者の選定 (Plenary 和田 弘, SC1 野田克彦, WG 4/6 西岡英也)

WG 4/1 と WG 4/5 を日本で開催するための準備案の承認。会計報告の了承。

第20回 43年度会計報告の承認。44年度予算の了承。新委員として岸上利秋氏(通研)の委嘱。44年度の事業計画, とくに東京会議の準備状況の報告, ECMA との情報交換を確保するため, 当方からも技術文書を発送するようとの要請。JIS 原案の依頼先についての討議。JIS 原案作成のため COBOL と論理回路記号の委員会を設置することの承認。

第21回 各 SC の活動報告。漢字コードの標準化委員会を新設することの承認。

第22回 委員会内規の見なおし。各 SC の報告, 漢字コード標準化委員会の主査を林 大氏(文部省)に委嘱することの承認。SC 4 の中に WG 4/5 を設置し, その主査を木沢 誠氏(電試)に委嘱することの承認。JIS 原案を作成するための COBOL 委員会(主査 水野幸男氏(日電))は本年度内に作業を終えることが無理なので, 昨年度改めて委託を期待して, 作業は続けるが, 工業技術院には辞退届を提出することの承認。昨年度の JIS 原案委託方針について, 工技院の誤明を聞きながら討論。

委員長の交代(山下委員長から JISC の任期が満期になったのを機会に辞任したいこと, 並びに後任の選出を委員長に一任すること, 和田幹事を選出すること)が可決された。

幹事の交代(海宝 顕氏(日本 IBM)が推薦された。)

名誉委員長(山下前委員長が名誉委員長に推薦された。)

5. 各 SC, WG の活動報告

5.1 SC 1: Vocabulary

(1) 国際活動

ISO の SC 1 委員会は, 最近とみに活発になってきて, 昨年2回の会合を開いた。すなわち, 第5回(5月19~23日, 於ワシントン)に西野博二(電試), 植本隆光(富士通), 大日方 真(日本ソフト), 村田賢一(富士通), 伊藤公一(東芝), 増田竜彦(東芝)の各氏が, 第6回(10月6~10日, 於パリ)と岡 一

博(電試), 松山俊介(NUK), 木納 崇(東芝)の各氏が参加した。第6回までに審議した結果は第4表(ISO/TC 97/SC 1 (secr. 75) 162) のとおりである。

第4表

A	01	***	Fundamental terms
B	02	**	Mathematics and logics
C	03		Engineering technology
D	04	***	Organization of data
E	05	***	Representation of data
F	06	***	Preparation and handling of data
G	07	**	Arithmetic and logic operations
H	08		Coding, error control and checking
I	09	*	Information theory
J	10	**	Formalization and preparation of programs
K	11	**	Programming techniques
L	12	*	Instructions
M	13	o	Operating techniques and facilities
N	14		Reliability and maintenance
O	15		Programming languages
P	16	o	Control devices, input and output equipment
Q	17	o	Component units of arithmetical equipment
R	18	o	Storage techniques
S	19		Stores using moving magnetic media
T	20		Stores using stationary magnetic media
U	21		Properties and uses of data carriers
V	22		Data carrier equipment
W	23		Data transmission
X	24	* SC 8	Numerical control of machines and processes
Y	25		Miscellaneous applications of data processing —Operations research
Z	26		Information processing staff titles

- o 研究中
- * 検討中
- ** SC 1 で投票中
- *** DR として各国の意見を照会中

(2) 国内委員会

(a) ISO 関係

SC 1 は通算 7 回, SC 1 WG 1 は通算 8 回の会合を開き, 会議のための諸準備, その報告などを行ない, また, これに関連して 3 回の letter vote を行なった。

(b) 情報処理用語対訳集について

SC 1 内外の要望が強いので, 対訳用語集を作成する計画を立てた。

(c) 人事

SC 1 委員長 野田→西野(電試)
WG 1 主 査 西野→別所(通研)……予定

(3) その他

当学会で原案作成した用語の JIS 案が, 現在の JIS 案と一緒にして, 本年中には新 JIS として制定される予定である。

5.2 SC 2: Character sets and coding

主査 喜安善市

(1) 国際的活動

(a) SC-2 第6回会議が5月12日~14日, イタリアのナポリで開催され, わが国から山本芳秀(電電公社), 瀬野健治(富士通), 白浜鷹志(日本 IBM) の3氏が出席した。おもな経過は, つぎのとおりである。

(i) Code Extension について 基本的事項は Draft Recommendation の手続き段階にはいることとなり, 3-character ESC Sequence とその登録法は, Experts Group によって Draft Proposal を作成することとなった。

(ii) Code Expansion について Draft Proposal を作成された。

(iii) 8単位カードコードについて フランス案に意見が一致し, Draft Recommendation の手続き段階にはいることとなった。

(iv) OCR, MICR 用文字の符号化について E 13 B は規格化しないこととし, OCR-A, B および CMC-7 は Draft Recommendation の手続き段階にはいることとなった。

(v) Control Character の記号および図形表示について Draft Recommendation の手続を行なうこととなった。

(vi) 磁気テープラベルとファイル構成(Recommendation の配布準備中) および 7 単位カードコード (Draft Recommendation 投票済み) に文章上の修正を加えることとなった。

(vii) Packed Numeric, Binary Data, 漢字コード, Type-Setting などの Delimiting および 7 単位 ISO コードの修正 (CCITT の提案) に関して, Working Paper を求めることとなり, また, 8 単位符号の例を各国から求めることとなった。

(b) ナポリ会議後 Ad-hoc により 3-character Escape Sequence の登録法の討議が行なわれた。続いて Experts Group によって, 3-character Escape Sequence とその登録法に関する審議が行なわれ, 前者に対して中間報告を, 後者においては Draft Proposal が作成され, 回付された。

(2) 国内活動

国際的活動に応じ, 1 章に述べた各項に対する審議を行なうほか, 漢字符号化に関する審議を進めた。おもな事項はつぎのとおり。

(a) TC 95/N 208 (計算機械用記号) について討議し, SC 2 で Draft Recommendation の手続きにはいった Control Character の図形に合わせるべきである旨意見提出した。

(b) 3-Character Escape Sequence の登録法について, 審議し, 意見を送った。その後 Draft Proposal および日本の意見に対する Experts Group の報告を受け, Draft Proposal に対して文章上の意見を付して賛成投票を行なった。

(c) Code Extension について Experts Group の中間報告が回付されたので, 審議の結果, 漢字コードのごとき大規模な Character Set を扱う符号構成を提案し, 漢字符号化の検討資料とともに送付した。

(d) 7単位符号表に含まれない Control Character について調査検討を行なったが, 標準の Set に絞るまでに至っていない。この検討状況を ECMA に送付した。

(e) 漢字符号化について討議を行ない, 漢字コードの概略の構想を得た。これに基づき文字の選択, 文字配列の検討などを漢字コード委員会に依頼し, 当委員会は外字の指定, Type Setting の方法について討議を継続している。

5.3 SC 3: Character recognition

主査 元岡 達

OCR の印刷品質規格ができ上がり, SC 3 の手をはなれているので, SC 3 としては, 今年度何も新しい動きはない。国内委員会も 11 月に一度開催し, 最終案 (ISO, DR, 1831) について意見をまとめ, Editorial Comment を付けて承認することを上申したのみである。OCR の字形規格 (ISO R 1073) が出版された。

5.4 SC 4: Input/Output

主査 和田 弘

本年は WG 4/1 と 4/5 が日本で開催されたことが特記される。その詳細は各 WG の記事を参照せられたい。WG 4/5 はこの時点まで Observer Member として参加してきたが, この度の討議内容から見て, P-Member として参加すべきであるとの意見が強くなった。そこで当委員会にも WG 4/5 を新設するとともに, Secretariat にも P-Member としての参加を通知した。

5.4.1 SC 4/WG 1: Magnetic tape

主査 木澤 誠

(1) 国際活動

第 5 回国際会議は 7 月 1~4 日静岡県清水市の日本

平観光ホテルにおいて開かれ, わが国からは木澤 誠 (主), 西川正明, 西岡英也, 錦織文六の 4 名が代表, 池田義載, 黒河亀千代の 2 名がオブザーバとして参加した。他の参加国はフランス (2 名), ドイツ (4 名), イギリス (1 名), アメリカ (7 名) で, 事務局より A. C. Grove が参加した。議事の焦点は 9トラック 1,600 rpi の Recorded Tape と, Unrecorded Tape とであった。

前者については, 従来案に対し, 6 点の編集的修正が決定されたが, Density of Recording と Flux Reversal Spacing とについては議論が多く, 決定を保留して持越しとなった。後者については DR 1864 に対し, 書込電流値の修正ほか 6 点の修正を議決し, SC 4 に送付することとなった。

そのほか, SI 単位で表示すること, NBS に対し 1,600 rpi 用の Recorded Signal Amplitude Reference Tape の開発を要請することなども議決された。

(2) 国内活動

国内分科会は国際会議前に 1 回, 後に 4 回 (他に Ad hoc 2 回) 開催された, とくに 9 月以降は国際会議において懸案となった事項, わが国から提案すべき事項, および将来アメリカより提案を予告されている事項などについて検討を進め, このため Ad hoc 委員会も設けた。検討事項の主要点は下記のとおり。

- i) Unrecorded Tape の Average Peak Output の 3,200 rpi における Tolerance.
- ii) Unrecorded Tape の Ease of Erasure と Drop-ins.
- iii) Unrecorded Tape に対する追加事項 (表面抵抗, 小さいリール, カールなど).
- iv) 1,600 rpi Recorded Tape の保留事項.
- v) Reference Tape の問題.
- vi) イギリスよりの新提案に対する検討.

5.4.2 SC 4/WG 2: Punched card

主査 海宝 顕

(1) 概要

ISO の活動が用語や Special Purpose Paper Cards の審議に移ったため不活発となり, 当委員会は 1969 年中, 1 度委員会を開催した。

(a) つきの 2 件の ISO 推薦規格案を審議した結果, 原案どおり支持することとし, 3 月にその旨 ISO へ回答した。

- ・ISO DR No. 1681 未穿孔カードの仕様
- ・ISO DR No. 1682 80 桁穿孔カードの四角孔

寸法と位置

(b) 各委員より提出された穿孔カード関係の用語について審議したが、その意味まで定義したので、ISO へ提案するまでに至らなかった。

(c) Special Purpose Paper Cards については、わが国では経験が浅いため、しばらく ISO の動向を見守ることとした。

5.4.3 SC 4/WG 3: Punched tape

主査 林 智彦

1968年の会議において、(1)紙テープの取扱いに関する一般規約、(2)交換用リールの規格の2点が継続審議となり、1969年前半に(2)に関する ad hoc グループの答申が作成された。秋に行なわれるはずであった会議は、1970年へ持ち越されたため、本年の活動は上記に関する各国の意見文書の提出のみであった。

5.4.4 SC 4/WG 4: Input/Output Equipment

主査 野田克彦

(1) 概要

ISO/TC 97/SC 4/WG 4 における I/O インタフェースの標準化の作業が活発になってきたので、これに呼応して国内委員会でも活発な活動が行なわれた。

(2) 国際会議の様相

ISO/TC 97/SC 4/WG 4 の第2回会合を1969年6月9～10日ベルリンで開催した。この会議には米国から標準 I/O インタフェースの具備すべき条件が提案された。この条件をチェックリストとして今後の審議を進めることを決めた。

インタフェース仕様案としては、英国が入出力機器と出力制御装置の間のインタフェースの標準案を提出、日本は電子計算機チャンネルと出力制御装置の間のインタフェース(論理インタフェース)の標準案を提案した。

会議ではこの2つのインタフェースの標準化案を共に採択して審議することとした。

前者のインタフェースについては、各国から英国案に対する意見を提出し、これに基づいて英国は次回に再提案することとなった。

後者のインタフェースについては、日本案を基本資料として採択し、各国は日本案に対する意見を次回までに提出し、これを基にして審議することとした。

(3) 国内委員会の活動

以上の取決めにしたがって、国内委員会では英国提案に対する日本の意見をとりまとめて幹事国(西独)に送付した。また、日本案に対して英、米、独、チェ

コなどから寄せられた意見を検討・整理し、回答の用意を行なった。

このほか、日本案(論理インタフェース)に対応する物理インタフェース案を作製、幹事国に送付する準備を行なった。

昭和44年度における国内委員会の開催数は計9回であった。

5.4.5 SC 4/WG 5: Instrumentation Magnetic Tape

主査 木澤 誠

(1) 国際活動

第2回国際会議は7月7～9日の3日間、機械振興会館5階会議室において開催され、わが国からは木澤誠(主)、木村 磐、徳永英二の3名が代表、黒河亀千代がオブザーバとして参加した。他の参加国はフランス(2名)、ドイツ(3名)、アメリカ(4名)、ソ連(2名)で、事務局より A. C. Grove が参加した。主要議事は下記のとおりである。

(a) Scope と Program of Work の原案に対し、若干字句を修正して承認。

(b) DR 1858～1860 に対して若干の修正。

(c) Working Paper for Winding Tension, Physical Properties and Test Methods for Unrecorded Magnetic Tape に対し、張力の項の削除が議決され、表面抵抗値、カールの限界値などが懸案となった。

(d) Recorded Magnetic Tape に関しては、ドイツ提案をもととして検討し、トラック位置と寸法に関する事項が大部分結論に到達し、電気的事項が懸案となった。なお、この WG におけるわが国の membership は不明確であったが、とりえず“O” Member として登録し、後に正規に“P” Member となる手続をとった。

(2) 国内活動

この WG に対する国内分科会は当初は設けられず、SC 4/WG 1 が兼ねていたが、活動に支障が多いので、国際会議がわが国で開催されたのを機に設置することになり、10月8日、11月6日の2回開催した、そして懸案事項と、Recorded Tape の電気的事項とについて検討を進めている。

5.4.6 SC 4/WG 6: Magnetic Disk Packs

主査 西岡英也

(1) 発足の経緯

ISO/TC 97/SC 4 に WG 6 を新設、ディスクパックの標準化を進めることが1968年の SC 4 (ジュネー

ブ)にて採択され、これに引き続く TC 97 Plenary Meeting において承認され (アムステルダム), 1969 年 6 月第 1 回会議がベルリンで開催されることになったので, P Member である日本の国内委員会として, 規格委員会 SC 4 の中に WG 6 が新設された。

(2) 作業概要

(a) 5月29日第1回委員会開催 ベルリン会議に提出すべき日本提案の審議ととりまとめを行なう。

(b) 6月11日~13日, ベルリン会議に当委員会より, 西岡(富士通), 海宝(日本 IBM), 小林(電電公社)の3名が出席, 機械的特性を中心に審議, 定量的な規定に関しては, 多くの点が1970年6月開催予定の第2回会議の検討事項となった。なお磁気的特性および Format についても方針の審議を行なった。

(c) 7月29日, 第2回委員会開催 ベルリン会議の報告と, 同会議で1970年1月31日までに提出することを要求された。提案事項の審議を行なう。

(d) 10月3日, 12月5日, 第3回および第4回委員会開催 提案事項の審議, とりまとめを行ない提案書を作成45年1月28日発送した。

(3) 今後の予定

各国提案が回付されたとき, これらを審議, 6月会議のための提案を準備する予定。

5.5 SC 5: Programming Language

主査 高橋秀俊

とくに記すことなし。

5.5.1 SC 5/WG 1: Programming Languages for the Numerical Control of machines

主査 研野和人

(1) 国際的活動

第3回国際会議は, 昭和44年9月19日~23日にわたって, イタリアのトリノにおいて行なわれた。

(a) Input Language Comparison (主査 Mr. McPherson) NC プログラム言語の国際標準をつくる方向に向かって発展していくためには, APT-like の候補言語の類似性(シミラリティ)を記述すること。この同意は候補言語間の相違が明らかにされるについて, 強調されてきている。

言語の比較中に得た相違を記述すること。できる限りのリコメンデーションを行なって, 差についての討論を推進すること。

(b) Short Form (主査 Mr. Fowler) 超数値言語(Numeric Meta-Language)は, レファレンスラ

ンゲージのレコード, コヒーレントなグループとして, 候補言語のレコードを保つ手段として価値がある。このシステムの名を NUMEMPS (Numeric Meta-Language Processing System) と呼ぶ。「簡略化したフォーム」がこのシステムによってつくられるリストで, Short Form である。

(c) Subsets & Modular Features (主査 Mr. Horn)。

ニュークレアス(Nucleus) ある効果に関係なしに簡単なパートプログラムを処理しうる最小の言語の集合(セット)をニュークレアスという。すべてのサブセットは, このニュークレアスを含んでいる。ニュークレアスにはつぎのものが含まれていることは自明であろう。GOTO/, MACHIN/, FINI。

モジュラフィーチャ(Modular Feature) それ自身では処理されえない付加的な能力であって, パートプログラミングのサブセットの能力および効率を増加する。あるものは, ある別のものの存在を必要とするようなものであってもよい。

サブセット(Subset) ある特定の加工用の NC テープを得ることができる。それ自身で充分な NC 言語である。ポストプロセッサとのつながりを簡単にするために, 出力は適当な CLDATA レコードを与えることと, ニュークレアスを含んでいて, モジュラフィーチャを含んでいてよしい。

レファレンスランゲージ(Reference Language) ニュークレアスとすべてのモジュラフィーチャを含むもので, 必ずしもインプレメントされる必要はない。

(d) CLDATA (主査 Mr. Sontheim) (ドキュメント No. 91 参照)。

プロセッサの出力は, ポストプロセッサの入力となる。これを CLDATA と呼んでいる。CLDATA は物理的メディアの上にブロックとしてレコードされる。

CLDATA の標準は, APT III の仕事をもとにしていて, 現在のポストプロセッサに干渉しないように必要な拡張が行なわれる。

CLDATA のレコードはつぎの3つに分かれる。

- (i) シーケンスカウント
- (ii) アイデンティフィケーション
- (iii) データ

(2) 国内委員会活動について

現状においては勉強する気持があるだけだった。国内メーカーの意気が盛り上がりならず, 1970年からは電子協内でこれを検討する予定。

5.6 SC 6: Digital Data Transmission

主査 米沢威行

(1) 概要

当委員会は、1969年中に7回の委員会を開催した。また2つの作業部会を設け、1968年6月のトリノ会議で検討を要請された項目について討議を行なった。その討議内容をもとに、委員会で文書を作成して、ISO事務局に送付した。なお、第7回SC6国際会議(11月10日～14日、於ロンドン)には、鈴木錠造、西海靖司、小林和夫、齊藤輝の4氏が出席した。

(2) 国内委員会における主要議事内容(ロンドン会議前)

1968年末に設けた2つの作業部会(WG1およびWG2)において、伝送制御手順に関して検討を要請されているつぎの項目について討議するため、それぞれ20回程度の会合を持った。

(a) WG1: 交互監視を有する両方向同時伝送に関する伝送制御手順。

(b) WG2: (i) 付加的回復手順。

(ii) 放棄手順。

(iii) 中断手順。

(iv) 会話モード制御手順。

委員会で、作業部会の報告をもとに文書を作成し、ISO事務局に送付した。

(3) ロンドン会議

ロンドン会議の主要決議事項は次のとおりである。

(a) ピン配列(N. 315)およびコードインディペンデント伝送のための制御手順(N. 328)については、緊急手続でTC 97に送付する。

(b) 以下の項目に関して検討を行ない、つぎのSC6会議までに文書を提出することを要請する。

(i) ピン配列の勧告(N. 315)に合致させるための措置

(ii) 広帯域モデムのピン配列

(iii) 信号品質

(iv) 基本モードに対する補足

(v) 情報メッセージの会話的転送

(vi) 交互監視による両方向同時伝送の制御手順

(vii) 同時監視による両方向同時伝送の制御手順

(c) 並列伝送用キャラクタセットを定義するにあたりSC2に助言を求める。

[日本の主張に関する結果]

2項にしるした日本の文書は、ほぼ全面的に受け入れられ、各勧告案の骨子となった。ただし、従来から

主張していた伝送制御キャラクタの連送については、EOTを除きその必要性が認められていない。

(4) 国内委員会における主要議事内容(ロンドン会議後)

ロンドン会議において検討を要請されている項目について検討するため、2つの作業部会を組織し、1970年3月末をめどに結論をまとめることとした。検討項目はつぎのとおりである。

WG1: (3)(b)項の(vi)および(vii)

WG2: (3)(b)項の(i)～(v)

(5) Letter Ballot に関する回答

(a) 調歩同期および同期伝送におけるキャラクタ構成:

(i) D. R. 1734: Approve with Comment ※ Commentの内容は「電話交換網を使用したデータ伝送における1ストップエレメントの研究を早急にすべきである。

(ii) D. R. 1734: Approve ※N 276の日本のコメントは、CCITTとの関連で却下された。

(b) 情報メッセージの誤り検出のための水平バリエティの使用法:

(i) D. R. 1732: Approve

(ii) " : Approve

(c) データ通信システムにおける基本モード制御手順:

(i) D. R. 1745: Approve

(d) データ端末装置とデータ通信装置(MODEM)間のインターフェイス回路に対するピン番号の割当て:

(i) D. Proposal: Approve

5.7 SC 7: Problem Definition and its Analysis

主査 横井 満

(1) SC7 会議

前年度の会合でフローチャートシンボル、フローチャートコンベンション共に審議を終了したので、前者は制定までの事務、後者は投票の手続が進行中であり、会議は開催されなかった。

(2) 国内委員会の議事

フローチャートコンベンション(用法)について、各国からの投票結果がまとまり、10月に文書の形で連絡があった(文書番号、97/7 N 60)。その内容は、「賛成多数であるが、各国のEditorial Commentsがあるので、その調整のため次総会直前に会合をしたい」という主旨のものであった。

これに應ずるため、11月5日に会合を開き、つぎのことを定めた。

(i) 「意見調整のための総会直前に会合をもつことは賛成である。ただし、フローチャートコンベンションの原案調整の最終会合としてはしい」旨事務局に意見を伝える。

(ii) 97/7 N 60 にしるされている各国の Comments の内容を検討し、調整可能な案を作成し、会合への出席者に意見に述べてもらうことにする。

上記(i)については11月15日に手紙を発送した。

また、(ii)については12月17日に再度会合をもち、菅委員の資料をもとに検討を行ない意見をまとめた。おもな問題点は Striping (Symbol 内に入れる横線)、Symbol Description (説明の書き方)、Predetermined Maximum Number (Symbol Name (識別名) の定義のときの字数の問題に関するものである。

(3) JIS 関係

1968年に、JIS本規格委員会が委託をうけ完成した情報処理用流れ図記号(用法もふくむ)の原案は、1969年には工業標準調査会記号専門委員会で3回の容議が行なわれ、了承が得られたので制定のはこびとなった。

5.8 SC 8: Numerical Control of Machines

主査 土井康弘

(1) SC 8 国内委員会

44年中につきのとおり5回開催した。

1. 44年2月13日(出席者6名)
2. " 4月1日(12名)
3. " 4月23日(12名)
4. " 7月30日(14名)
5. " 9月24日(8名)

(2) 国際活動について

(a) 1969年5月6~9日、ナポリにて SC 8 Meeting が開かれ、わが国から花岡氏(富士通)が出席した。会議において、Contouring/Positioning のためのせん孔テープ用 Variable Block Format の最終的審議がなされ、わが国から提出したクレームについても充分認められた。これは Draft Recommendation として、特急処理で上程されるはずである。

(b) 磁気テープ用フォーマットは、まだ緒についたばかりで、いまのところ、大きな動きはない。

(c) NC の装置、機械につける Symbol Mark について提案がなされつつある。わが委員会も工作機械工業会などと連絡をとり、協力を得て新しい提案を出して受理された。つぎの SC 8 Meeting で議題となる

であろう。

(d) 用語について遅々として進んでいない様子で、むしろ、われわれが電子協主催のもとに審議している NC 用語の方が早くまとまってしまった。

(e) またぞろ Sensor の類別などについての提案もあり、そろそろ NC 機械の ISO 規格も大詰めにきた感である。今後はソフトウェアの方に大きく荷重が移るのではあるまいか。

5.9 WG-K: Data Elements and Their coded Representations

主査 安藤 馨

当委員会は1969年1月以来、委員会を10回開催し、TC 97/WG-K の国内委員会として働くとともに、国内データコードの標準化について研究してきた。1969年の当委員会の活動概要は、つぎのとおりである。

(1) ISO Draft Proposal 「単位の略号」(ISO/97/K-Expert Group N 9) について、工技院計量研究所にも意見を求めて審議した結果、これを支持することにした。

(2) 当委員会の今後の作業計画を検討するために、電子計算機メーカー8社より、Data Management について現状の説明をうけた。

(3) 商品分類をデータコードの面から検討するために、日本標準商品分類の制定経過や特長、世界で使用されている商品の分類、貿易統計、日本における商品分類の現状について外部(行政管理局、アジア経済研究所、三菱商事、商船三井)より説明をうけた。また、データコードの体系化のためのソースラスタについて、国立国語研究所より説明をうけた。

(4) ISO/TC 97 より「日付の表現」と「週の数え方」の Proposal が送付されてきたので、これを審議した。これについて日本はすでに意見を出しているのので、今回は意見を出さないことにした。

6. ま と め

以上1969年での規格委員会の経過大要をまとめた。近年、情報化が力をもって推進されるようになってきて、その一端として標準化も注目をあびるようになってきた。

学会としては、その本来の立場を見失なうことなく、技術の立場から、その内容について真剣な努力を払うべきであろう。明年には、このような趣旨から、大きな運動を展開するようなことも企画されている。会員諸君のご高見を拝聴できれば幸いである。